

事業費推移	年度	29年度決算	30年度決算	元年度	2年度	3年度
	事業費	41,804	46,941	52,302	52,302	52,302
	うち一般財源	0	0	0	0	0
	人件費	5,787	5,857	5,857	5,857	5,857
	総事業費	47,591	52,798	58,159	58,159	58,159

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		各家庭での取り組みや小学校での学習を通じて、ごみ減量への意識向上を図ることができた。
	効率性	B:概ね効率的だった		継続した事業でもあり、効率的な処理、運用の手法は確立されている。
②成果に対する評価	指標名	全体のごみ排出量(資源ごみ集団回収を除く)		災害ごみや事業系ごみの受入量が増えたが、継続してごみ減量補助制度と啓発を行ってきたことにより、家庭ごみ排出量は減少傾向であるため、概ね目標を達成できた。
	目標	17,524	t	
	実績	17,845	t	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		全体のごみ排出量は増えたが、家庭ごみ排出量を減少することができたため総合的な評価はB評価とする。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	コンポスト、電気式生ごみ処理機の購入補助制度の利用者数について、一定数の利用は継続してあるものの減少傾向が見られるため、継続した広報活動により利用者増加への取り組みを強化する必要がある。 さらなるごみ減量に向けて各家庭における意識向上が図られるよう、今後も取り組みを進めていく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	R1年度	現在の事業を継続していくことに加えて、生ごみの水切りや雑がみ回収について、各地域団体へ出向いて説明と啓発を行い、ごみ減量に向けた取り組みがより一層強化できるよう働きかけていく。			
	R2年度	同上			